

平成 20 年 11 月 21 日

対馬の事は、もっと歴史認識を 物申すなら日韓両国政府へあんまりかかりますな～

竹島（独島）問題で端を発した領土問題は、国際問題絡みとなり、国境の島対馬に強い影響を浴びせ続けている。更にテレビ等でマスコミが煽動する中、この数カ月の間に、韓国そして、日本本土より、各種団体が多数来島しマイクを片手に声を張り上げ、それぞれの主張を展開している。来島して頂くことは島民として本当に有難い事である。しかし、問題はその内容であろう。韓国の退役軍人中心団体は、市役所横で対馬も韓国領土だと自国の国旗を振りかざし血判状までつくり、連呼し聴衆から怒号が飛び交うなど、異様な光景とも言えた。

又、日本の団体は、「対馬は韓国に奪われてもよいのか。対馬市民は其れでよいのか。韓国の観光客に対して万引きする泥棒は対馬から出てゆけ。韓国人は出て行け」。『対馬市商工会会長浦田一朗、対馬観光物産協会庄野伸十朗は、アリラン祭をやめろ』。等々の挑発的な言葉を発し耳を覆いたくなる。

韓国の観光客が本当に対馬を韓国の領土と思っているとでも言うのか。又韓国の人が対馬で万引きし逮捕されたとは、今だ聞いた事がない。何処に証拠があると言うのか人権侵害である。

アリラン祭、アリラン祭と罵声を浴びせるが、この祭は、昭和六三年、国定公園二十周年記念事業として名称を付け、メインである朝鮮通信使行列は、故庄野晃三郎氏（大坂屋店主）が私財を投じ厳原町民による行列が昭和五十三年に始まり、現在に至っている歴然とした対馬の祭りである。誤解のなき様もっと対馬を再認識して頂きたい。

対馬は他の市町村とは歴史的背景が全く違うと言う事を、古来より対馬と朝鮮半島の経済交流は一三六六年約六四〇年以前より始まり、江戸鎖国時代に於いても対馬は、長崎港と共に海外に門を開いた唯一の島である。

対馬は耕地が殆どなく朝鮮貿易により島民は生計を立て、宗家十万石を維持してきた。釜山に倭館を設け、対馬が飢きんの時は、米の援助を受けた。

一五九二年豊臣秀吉による朝鮮出兵により国交断絶、その後、宗義智は国書改ざんまでして、朝鮮国との国交回復に命を懸け対馬藩を再現させた。その苦勞たるを今に生きる島民は忘れてはなるまい。再度謂うが他の市町村とは、根本的に違うのが対馬である。

各団体に申し上げたい『対馬の事にかかんますな～』と。真に物申したいなら、日本国政府の総理官邸前、国会議事堂前で、韓国大統領府前、国会前でその主張を吐き出すべきである。何故対馬なのか御免こうむりたい。

雨森芳洲の『誠心之交隣』とは、互い欺かず、争わず、真実をもって交わる、この言葉を肝に銘じるべきであろう。

対馬市議会議員

四番 小宮教義